

用途：信頼の現在地

「正しい」のに、選ばれない。

現状のチェックポイント

毎日発信しているが反応が薄い / 「有益な情報」は出せている
相談の候補に挙がらない / 誰が書いたか思い出されない



「信じるに値する理由」が、相手に届いていない

役には立っている。しかし、心には残っていない。

「情報」の裏に、 人はいるか。

- 人柄としての「手触り」が欠けている
- 言葉に背景（ストーリー）が伴っていない
- 「この人は味方だ」という確信が未成立

信頼のボトルネック

「何を」言うかより「誰が」言うか。

有益さの先にある「人物の輪郭」が見えていない状態。

「有益」という名の罠。

ズレた方程式

有益性 = 信頼
丁寧な説明 = 成約
実績の数 = 安心

情報の落とし穴

正しさだけを重視
人物背景を削ぎ落とす
誰でも書ける一般論

情報を渡すほど、あなたの影は薄くなっていく。

用途：信頼の芯を作る

信頼を編む「四つの糸」

共感・具体性・一貫性・実在感

過去の「葛藤」×情景の「描写」
変化の「事実」×人物像の「統一」

有益な情報を出す前に、確かな「存在感」を示す。

「伝達」から「浸透」へ。

文章 = 情報の受け渡し → 文章 = 人物の提示

正しさの追求 → 味方認識の確立

抽象的なメリット説明 → 具体的な背景提示

点の投稿（単発） → 輪郭のある発信（連続）

「自分という歴史」を言語化する

- 過去の「つまずき」を一つ書き出す
- その時の「情景」を短文で描写する
- 乗り越えた後の「変化」を記録する
- 掲げている肩書きを再点検する
- プロフィールの物語性を確認する
- 「投稿内容」と「人柄」の矛盾を解消する
- 全てを「一人の人間」として統合する

用途：点検と調整

人柄を「固定」する。

発信の健康診断 / 信頼の設計図

「自分らしさ」の抽出 / 文脈（コンテキスト）の追加

輪郭の固定 / 選ばれる理由の整備場所

用途：次の選択

選ばれる理由を、デザインする。

プロフィールを物語形式で直す

肩書きを「提供価値」から逆算する

投稿に「私だけの視点」を組み込む

迷ったら再点検。輪郭が合えば、言葉は重くなる。